

現代日本経済史講義

第13回 第2章 戦時経済下の日本経済

2-1 日中戦争と円ブロック

2004年冬学期

武田晴人

⚡:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。

2-1 日中戦争と円ブロック

- 1936.2 2・26事件
- .3 広田内閣成立
- 1937.6 財政経済三原則発表
- .7 日中戦争開始
- .9 軍需工業動員法適用法、
輸出入等臨時措置法、臨時資金
調整法制定
- .10 企画院設置
- 1938.4 国家総動員法、電力管
理法制定
- 1939.7 アメリカ、日米通商条約
破棄通告
- .9 第二次世界大戦勃発
- .10 価格統制令、賃金臨時措
置令
- 1940.7 アメリカ、ガソリン・屑鉄な
どの対日輸出禁止
- .9 日独伊三国同盟
- .10 大政翼賛会創立
- .11 大日本産業報国会創立
- 1941.10 東条英機内閣成立
- .12 太平洋戦争開始

著作権処理の都合で、
この場所に挿入されていた

「近衛文麿内閣」

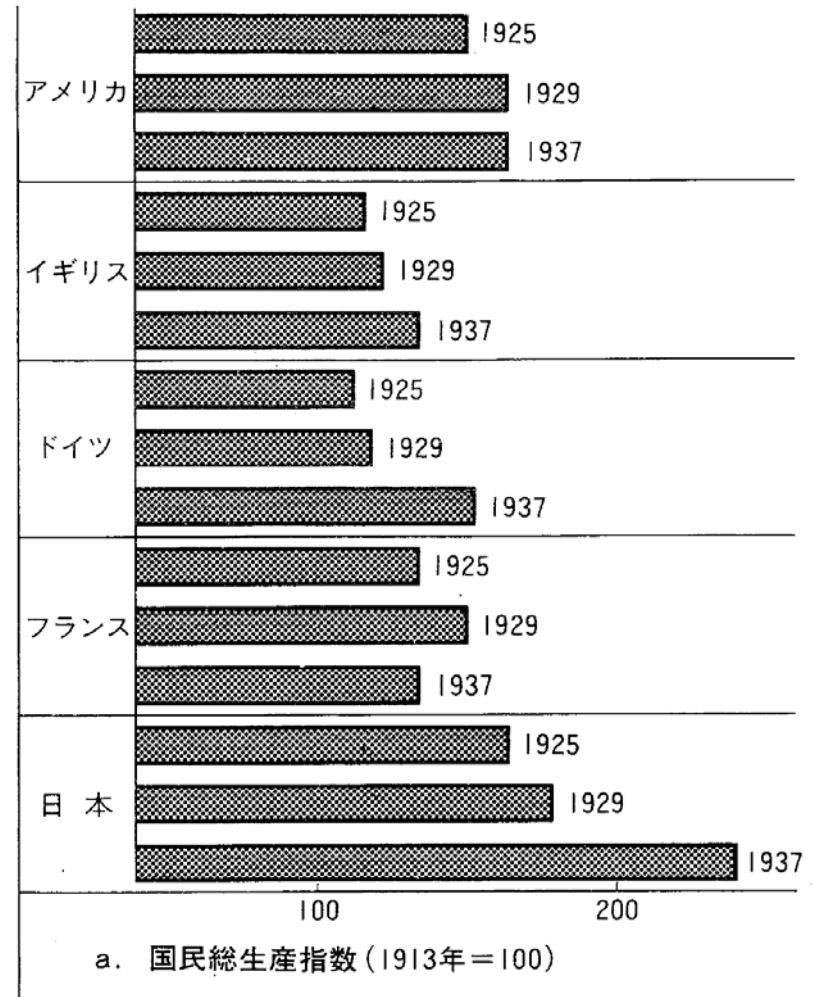
の写真を省略させていただきます。

2-1-1 世界経済のブロック化

- 1930年、アメリカは関税法を新たに制定して、国際的な関税戦争の口火を切り、
- 32年にイギリスがオタワ会議を開催して英帝国域内の特惠関税制度を主軸とする排他的な経済圏の形成を目指すことになる。
- このスターリングブロックの形成が日本やドイツに独自の経済ブロック建設を促す契機となり、世界は複数のブロックに分割され、円滑な貿易関係が維持できなくなった。

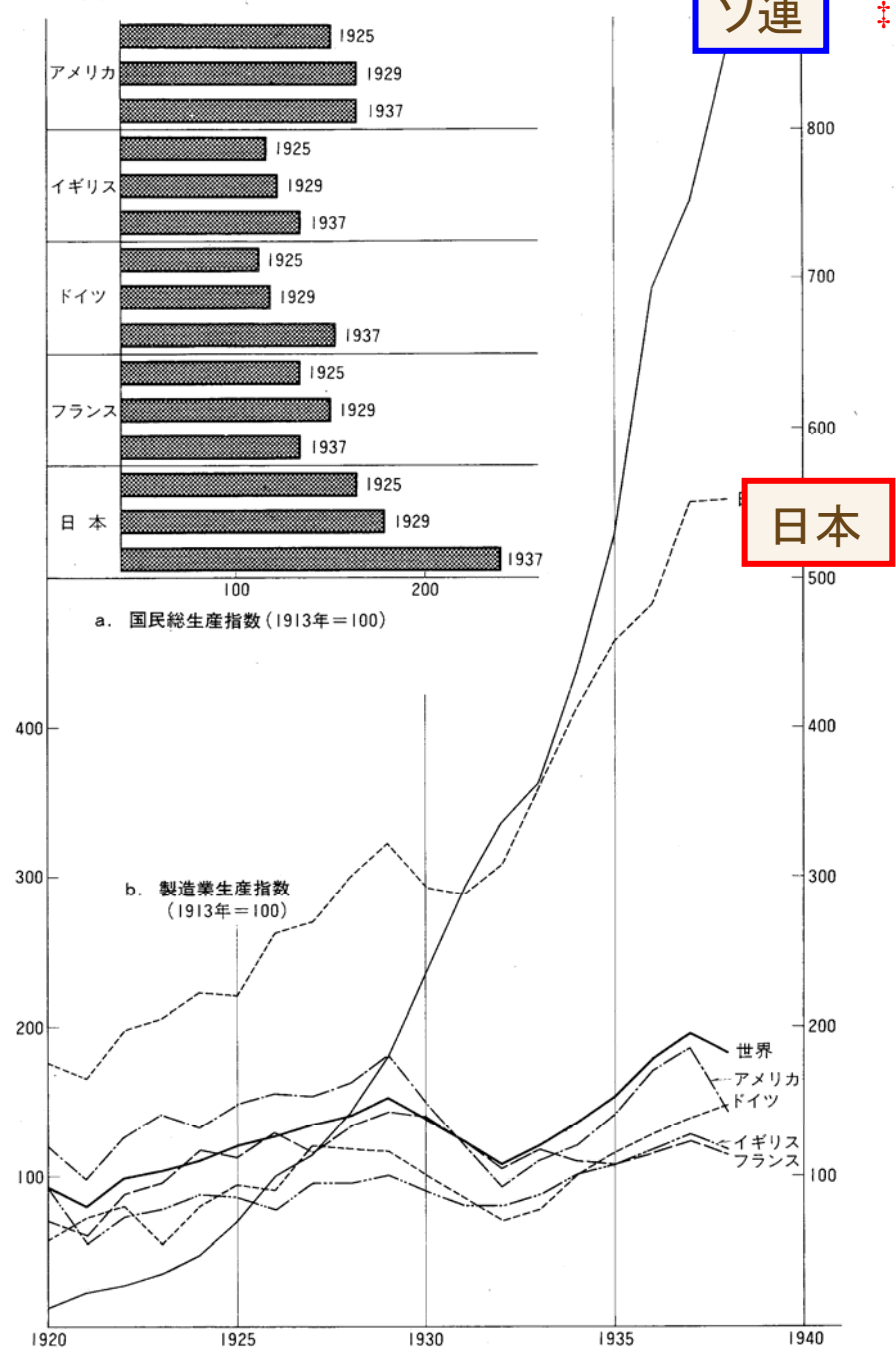
- 1930年代に主要工業国の経済成長はかなり大きな格差があった。フランス、アメリカはその成果に乏しく、日本は際だっていた。
- ← 高橋財政下の「内部循環」的な拡大

1. 主要国の経済成長



- 日本を上回ったのは、社会主義建設を急ぐソビエト連邦だけであった。

1. 主要国の経済成長



- アメリカ、イギリス、ドイツの失業率は1933年に20%を超え、極めて厳しい経済社会状態となった。

5. 主要国の失業者 (率) (1913~37年)

(1000人, %) [†]

	アメリカ	イギリス	ドイツ	フランス	イタリア
1913	1,671 (4.3)	432 ^a (2.1)	… (2.9)	… (4.7)	… (…)
1919	546 (1.4)	448 ^a (2.4)	693 ^b (3.7)	… (…)	… (…)
1925	1,453 (3.2)	1,226 (11.2)	664 ^b (6.7)	12 (…)	110 (…)
1929	1,550 (3.2)	1,216 (11.0)	1,899 (13.1)	10 (…)	301 (…)
1933	12,830 (24.9)	2,521 (21.3)	4,804 (26.3)	305 (…)	1,019 (…)
1937	7,700 (14.3)	1,484 (11.3)	912 (4.6)	380 (…)	874 (4.6)

世界貿易の推移

- 各国の経済不振は、世界貿易の極度の縮小に帰結した。
- 少なくなった貿易取引を各国は、ブロック化によって囲い込み、自国の輸出市場として、確保するとともに、国際決済機構の不完全さを時刻通貨圏の形成によってカバーしようとした。

	数量指数	価格指数
1913	74.0	73.5
1920	53.5	---
1929	100.0	100.0
1930	93.0	87.1
1931	85.6	67.7
1932	74.6	52.4
1933	75.4	46.7
1934	78.2	43.5
1935	81.8	42.4
1938	88.8	45.5

工業品と一次産品の 世界貿易

8. 工業製品と一次産品の世界貿易 (1921~38年) † (1913年=100, 年平均)

	工業製品指数			一次産品指数		
	価額	数量	価格	価額	数量	価格
1921-25	140.3	76.6	183.2	126.9	85.8	148
26-29	166.9	104.3	160.0	160.0	112.7	142
30	145.6	99.7	146.0	134.2	119.8	112
31-35	69.3	75.5	91.8	66.5	107.2	62
36-38	71.1	92.1	77.2	67.6	116.6	58

宮崎犀一他編『近代国際経済要覧』東京大学出版 p113より引用

- 特に第一次産品国では、価格の暴落が大きく、これを数量的にカバーしようとしたことから、価格の一層の低下を招いた。
- 工業品でも価格暴落が大きかった。総じて価格変動による調整が進められ、それ故に企業の採算が悪化した。

20. イギリスの主要貿易品目に占める英帝国圏のシェア

		1929		1937	
			英帝国圏		英帝国圏
輸 入	穀物	95.9	31.6(33.0)	91.4	47.2(51.6)
	肉・家畜 ¹⁾	130.0	39.7(30.5)	94.2	42.2(44.8)
	木材	45.8	4.4(9.6)	61.8	12.0(19.4)
	綿花	77.4	11.1(14.3)	48.7	9.9(20.3)
	羊毛	63.0	52.4(83.2)	52.1	41.3(79.3)

(1929, 37年)

(100万ポンド, %)

		1929		1937	
			英帝国圏		英帝国圏
輸 出	石炭	48.6	5.2(10.7)	37.7	5.5(14.6)
	鉄鋼・同製品	68.0	35.9(52.8)	48.4	27.8(57.4)
	機械 ²⁾	54.4	24.3(44.7)	49.7	28.6(57.6)
	綿製品	135.4	61.6(45.5)	68.5	33.2(48.5)
	輸送手段	50.3	26.9(53.5)	39.9	24.8(62.2)

Annual Statement of the Trade of the United Kingdom, 1930, Vol.

宮崎犀一他編『近代国際経済要覧』東京大学出版 p119より引用

•イギリスでは、帝国圏内からの穀物輸入が過半を占めるなど、ブロック経済への依存度が高まった。

•これが、赤字財政に依存せずにイギリスが景気回復に至った理由。

•イギリスは、世界貿易の3割を囲い込んだ。

17. 各国の貿易に占める「経済ブロック」のシェア及び帝国圏貿易の世界貿易に占めるシェア (1929, 37年) (%) *

	A. 各国の貿易に占める「経済ブロック」のシェア				B. 帝国圏貿易の世界シェア		
	輸 入		輸 出		1929	1937	
	1929	1937	1929	1937			
イギリス ¹⁾	{ 英 帝 国 圏	30	42	44	50	27.9	29.8
	{ その他スターリング・ブロック ²⁾	12	13	7	12
ドイ ツ	{ 南西ヨーロッパ6カ国 ³⁾	4.5	12	5	13
	{ ラテンアメリカ	12	16	8	11.5
フランス	{ 植 民 地・属 領	12	27	19	27.5	8.0	7.3
	{ 金ブロック諸国 ⁴⁾	14	14	29	27
イタリア	植 民 地・エチオピア	0.5	2	2	23
ポルトガル	植 民 地	8	10	13	12
日 本 ¹⁾	朝鮮, 台湾, 広東, 満洲	20	41	24	55
オランダ	植 民 地	5.5	9	9	11	4.7	4.8

原注：1) General Trade. 2) スウェーデン, ノルウェー, フィンランド, デンマーク, エジプト, エストニア, ラトビア, ポルトガル, タイ, イラク. 3) ブルガリア, ギリシア, ハンガリー, ルーマニア, トルコ, ユーゴスラヴィア. 4) ベルギー, イタリア, オランダ, スイス, ポーランド.

出所：A. League of Nations, *World Economic Survey*, 1938/9, p. 186. 4)のみ, *do.*, *International Trade Statistics*, 1938, p. 281, p. 303, より算出.

B. League of Nations, *Review of World Trade*, 1937, p. 22, 1938, p. 22.

26. 後進諸国の「中心国」に対する貿易依存度

(1929, 34, 38年)

(%)

		輸 入 ¹⁾			輸 出 ²⁾		
		1929	1934	1938	1929	1934	1938
対英依存度	カナダ	15.0	22.1	17.6	24.6	41.4	37.2
	オーストラリア	39.7	42.5	41.5	36.8	51.8	54.8
	インド ³⁾	42.4	40.5	31.4	21.2	33.2	34.0
	南ア連邦	43.1	48.7	43.2	65.8	74.4	75.5
対独依存度	ブルガリア	22.2	40.2	51.9 ⁴⁾	29.9	42.8	58.9 ⁴⁾
	ハンガリー ⁵⁾	20.0	18.3	29.7	11.7	22.2	27.7
	トルコ	15.3	33.8	47.0	13.3	37.4	42.9
	チリ	15.5	10.2	25.8	8.6	6.3	10.0
対米依存度	カナダ	68.8	57.2	62.7	44.2	34.1	37.9
	キューバ	58.8	56.2	70.9	76.9	75.6	76.1
	ブラジル	30.1	23.7	24.2	42.2	39.2	34.3
	ベネズエラ	55.0	45.1	58.7	27.7	16.0	13.6

注：1) 各国の輸入に占める「中心国」のシェア。 2) 各国の輸出に占める「中心国」のシェア。

3) 対アイルランドを含む。 4) オーストリアを含む。 5) Free Ports を除く。

出所：League of Nations, *International Trade Statistics*, 1929, 34年については36年度版, 1938年については38年度版より作成。

2-1-2 日中戦争と円ブロック構想

現代日本経済史2004

- 2・26事件によって財政面の歯止めを失った日本経済は、軍の要求のままに軍事費の拡張を続ける。
- 当時一般会計の規模がわずかに、28億円あまりの時に陸軍が要求した軍事費は25億円という法外なものであったが、テロの恐怖のなかで、内閣にも議会にもこれを押しとどめることはできなかった。
- この法外な軍備拡張要求は、直ちに輸入の急増に跳ね返り、36年秋から日本は急激な国際収支の悪化に見舞われることになる。
- その結果、国内では経済統制が本格化すると共に、対外的には37年7月の日中戦争をきっかけとして、日本は中国本土を含めた「日満支」ブロックの形成に向かい、さらに、40年代にはいると南方諸地域を含めた「大東亜共栄圏」の建設に期待をかけるようになる。

- 日満ブロックから日満支ブロックへの拡大は、満州開発計画の見込み違いに起因していたが、
- さらに日満支ブロックから大東亜共栄圏への展開は、日本の中国大陸への侵略による英米との対立を背景に、日本のアジアでの権益が一方的に拡大することに反対する英米が、中国支援のために対日外交で、通商条約の破棄や戦略物資の輸出禁止などの措置をとったことから、決定的となった。

12-3 円ブロックの実態。

ブロック別貿易収支

百万円

	総額			円ブロック			第三国市場		
	輸出	輸入	収支	輸出	輸入	収支	輸出	輸入	収支
1929	2,149	2,216	-67	471	376	95	1,678	1,840	-162
1930	1,470	1,546	-76	348	283	65	1,122	1,263	-141
1931	1,147	1,236	-89	221	236	-15	926	1,000	-74
1932	1,410	1,431	-21	276	205	71	1,134	1,226	-92
1933	1,861	1,917	-56	411	281	130	1,450	1,636	-186
1934	2,172	2,283	-111	520	311	209	1,652	1,972	-320
1935	2,499	2,472	27	575	350	225	1,924	2,122	-198
1936	2,693	2,764	-71	658	394	264	2,035	2,370	-335
1937	3,175	3,783	-608	791	438	353	2,384	3,345	-961
1938	2,690	2,663	27	1,166	564	602	1,524	2,099	-575
1939	3,576	2,918	658	1,747	683	1,064	1,829	2,235	-406
1940	3,656	3,453	203	1,867	756	1,111	1,789	2,697	-908
1941	2,651	2,899	-248	1,659	855	804	992	2,044	-1,052

- 円ブロックの実態は、円ブロックに対して黒字、第三国貿易において赤字であったから、鉄鉱石、綿花、石油などの主要資源の輸入に必要な外貨をブロック経済化がカバーできるわけではなかった。

円ブロックとの貿易関係

		1000円			%	
輸移出品	1928			1936		
相手地域	主要品目	金額	比率	主要品目	金額	比率
台湾	綿・絹織物	15,078	11.4	肥料	28,491	11.7
	鉄類	8,695	6.6	綿・絹織物	19,325	7.9
	乾魚ほか	5,498	4.2	鉄類	16,257	6.7
朝鮮	綿織物	42,766	14.5	機械類	40,862	6.3
	鉄類	15,066	5.1	絹織物	36,565	5.6
	絹織物	13,376	4.5	綿織物	32,118	5.0
満州・関東州	綿織物	60,264	33.6	綿織物	75,552	15.2
	小麦粉	10,311	5.8	機械類	47,534	9.5
	機械類	5,267	2.9	輸送用機器	30,068	6.0
華北	綿織物	30,186	29.0	機械類	8,984	14.9
	小麦粉	13,567	13.0	輸送用機器	7,288	12.1
	機械類	10,779	10.3	鉄類	6,963	11.6

輸移入品						
台灣	砂糖	121,413	56.6	砂糖	163,495	45.6
	米	53,229	24.8	米	124,309	34.6
	バナナ	8,615	4.0	鉍石	15,637	4.4
朝鮮	米	183,421	54.9	米	249,426	48.1
	大豆	23,340	7.0	肥料	38,390	7.4
	生糸	16,251	4.9	大豆	23,461	4.5
滿州・關東州	豆粕	72,856	34.3	大豆	60,519	25.3
	大豆	49,541	23.4	石炭	26,718	11.2
	石炭	23,677	11.2	豆粕	25,388	10.6
華北	実綿・繰綿	25,796	37.9	実綿・繰綿	19,287	27.7
	石炭	6,069	8.9	石炭	10,656	15.3
	牛肉	5,789	8.5	牛肉	6,198	8.9

- ブロック内の貿易は、従来からの資源輸入、製品輸出のパターンであり、ブロック内の資源が日本経済の再生産に必要な資源の確保にある程度の役割を果たした。
- しかし、……

主要商品の輸入依存度と輸移入先の構成

品目	輸入 依 存度	輸移入先						
		朝鮮	台湾	南洋群 島	満州・関 東州	小計	その他	合計
石油	82				0.91	0.91	99.09	100
石炭	10	9.90	3.73		43.68	57.31	42.69	100
鉄鉱石	89	8.81			7.18	15.99	84.01	100
屑鉄	72		1.15		1.80	2.95	97.05	100
銑鉄	33	12.00			19.00	31.00	69.00	100
ボーキサイト	100						100.00	100
マグネサイト	100				99.30	99.30	0.70	100
棉花	100	0.96				0.96	99.04	100
羊毛	100				0.18	0.18	99.82	100
パルプ	68						100.00	100
生ゴム	100						100.00	100

品目	輸入 依 存度	輸移入先						
		朝鮮	台湾	南洋群 島	満州・関 東州	小計	その他	合計
燐鉱石	100			9.31		9.31	90.69	100
硫安	25	20.13			34.31	54.44	45.56	100
塩	75		5.58		31.72	37.30	62.70	100
大豆	75	21.04	1.01		77.95	100.0	0.00	100
小麦	30	3.28			6.39	9.67	90.33	100
トウモロコシ	76					26.00	74.00	100
米	15	60.45	37.66			98.11	1.89	100
砂糖	88		80.28	4.00		84.28	15.72	100
工作機械	46					54.00	46.00	100

- 主要資源の外国依存度が高く、対外決済手段の不足の中で、軍事経済化する日本経済の発展には、ブロック経済は効果を発揮したとは言えなかった。